

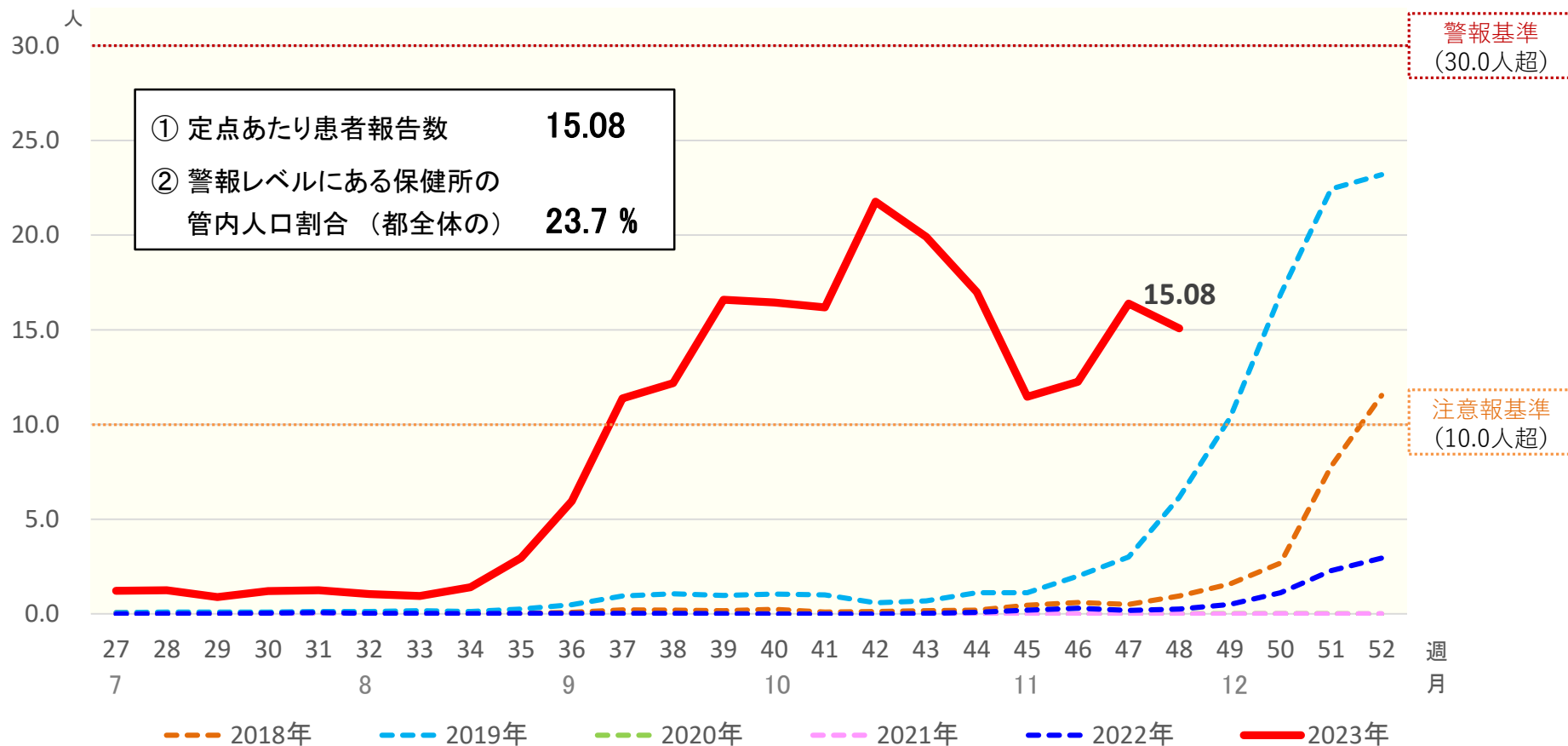
インフルエンザの感染状況

資料3

都内における週別定点あたりの患者報告数

注意報レベル(37週～)

2023年のデータは、12月3日(48週)まで



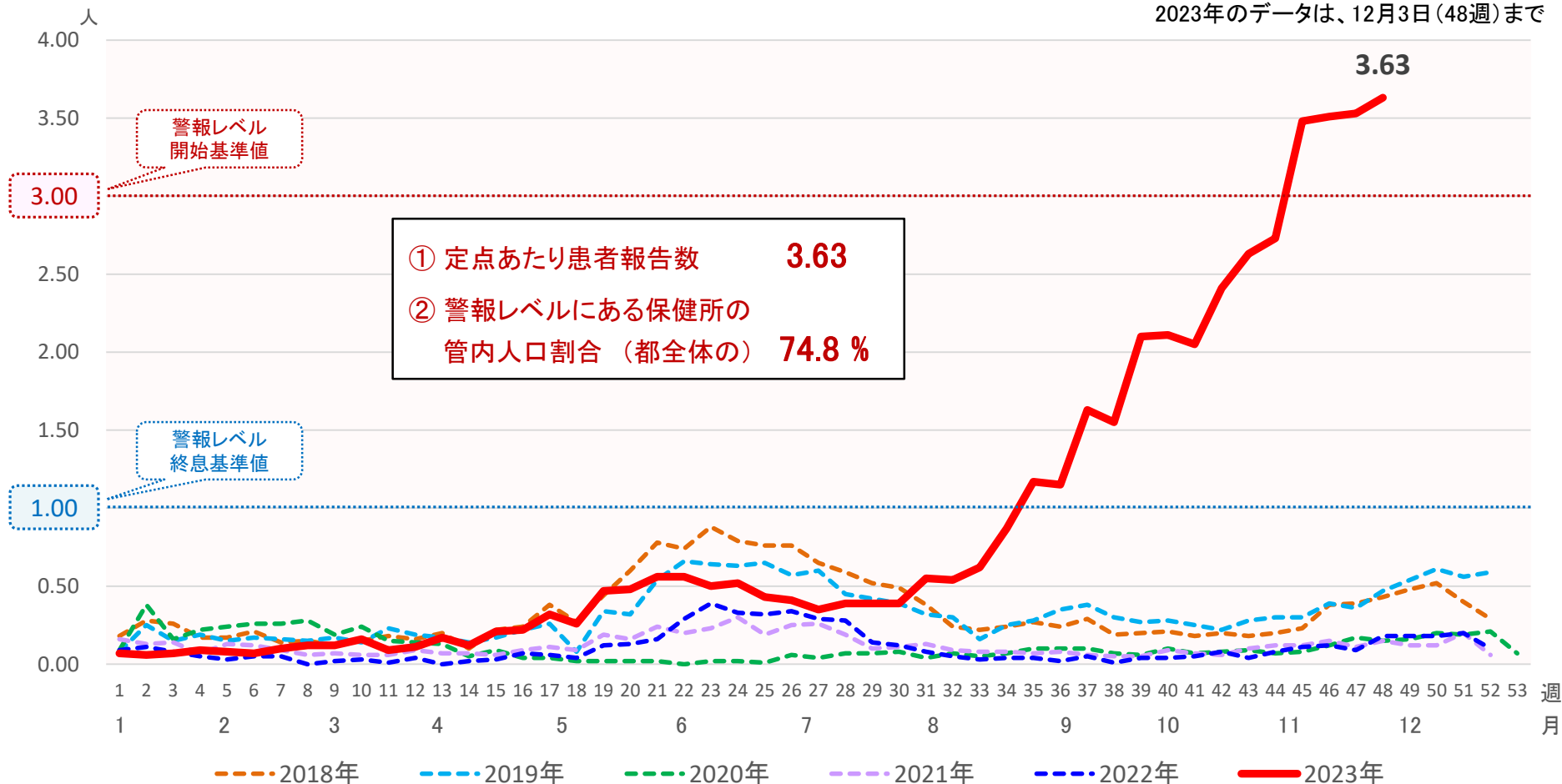
- 手洗いや換気など、感染防止対策の心がけを！
- ワクチン接種について、かかりつけ医等に早めの相談を！

咽頭結膜熱の感染状況

都内における週別定点あたりの患者報告数

警報レベル(40週~)

2023年のデータは、12月3日(48週)まで



アルコール消毒が効きにくい**ため**、流水と石けんによる手洗い、
タオル等の共用は避けるなどの感染防止対策を！

感染性胃腸炎 - 5類感染症 -

参照：東京都感染症情報センターホームページ・厚生労働省ホームページ

感染性胃腸炎とは？

- 主にウイルスや細菌などの病原体による感染症
- **原因となるウイルスには「ノロウイルス」「ロタウイルス」等がある**
- 手指や食品を介して口に入り、ヒトの腸管で増殖して嘔吐や下痢、腹痛などを起こす
- 子供や高齢者等では重症化することもある

主な感染経路

- **ヒトからヒトへの感染**
 - ・ 感染者の嘔吐物や便を触った手や手で触れたものを介して口に入った場合
- **汚染された食品や水からの感染**
 - ・ 食品取扱者が感染しており、その者を介して汚染された食品を食べた場合
 - ・ 汚染された二枚貝を生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合(ノロウイルス)



「ノロウイルス」と「ロタウイルス」の症状等

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	下痢、嘔吐、吐き気、腹痛 発熱や脱水症状を起こすこともある	下痢、嘔吐、発熱（白色で水様の下痢便が特徴） 脱水症状を起こすこともある
流行時期	1年を通して発生するが、11月～3月が多い ピーク時期は12月頃	冬季（1月～5月頃）に乳幼児を中心に発生が多い ピーク時期は2月～3月頃
潜伏期間	1日～2日程度	1日～2日程度
症状が続く期間	1日～2日程度	3日～8日程度

予防接種(定期接種 R2.10～)

- ・ 初回感染時における乳幼児等の重症化を予防
- ・ 生後6週以降の早い時期に1回目を接種

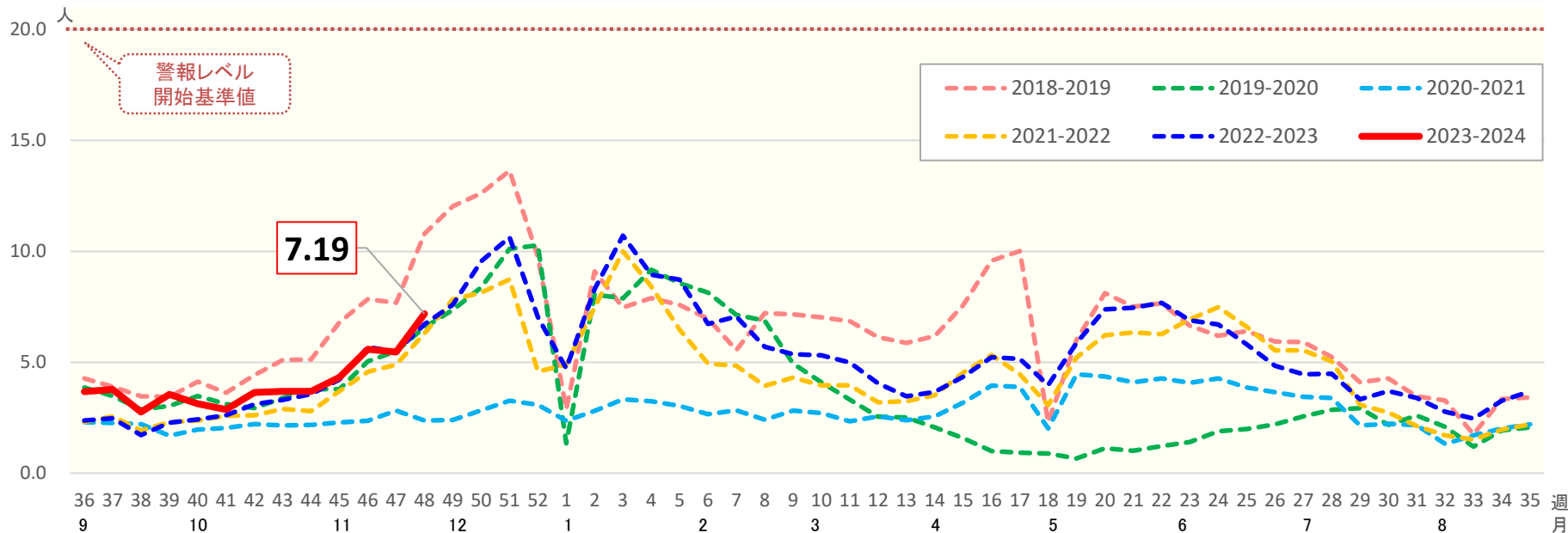
感染性胃腸炎 - 感染状況 -

参照: 東京都感染症情報センターホームページ

都内定点医療機関あたりの患者報告数

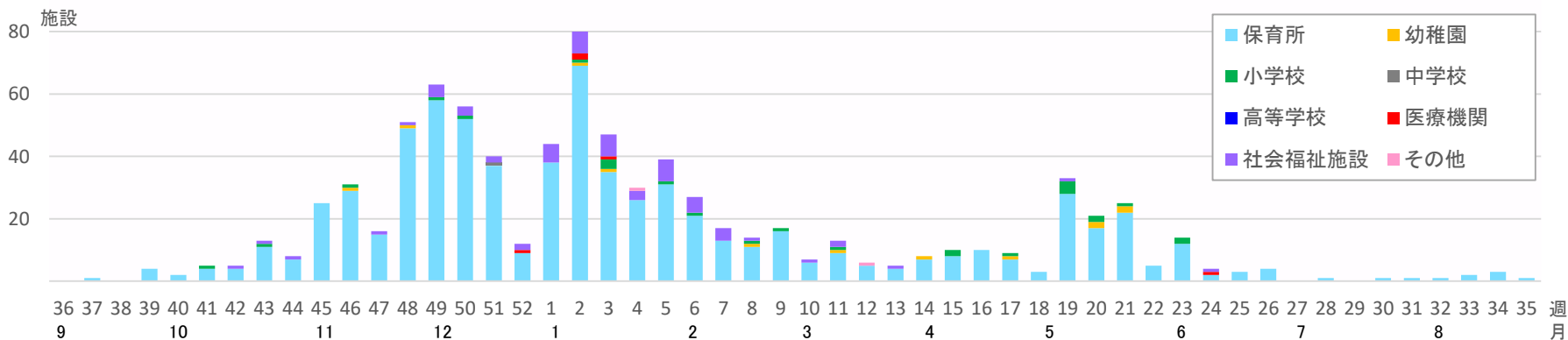
(警報レベル開始基準値 20.0人)

2023年のデータは、12月3日(48週)まで



2022-2023シーズンの施設別発生状況

保健所に報告があった感染性胃腸炎事例のうち、同一施設で10人以上の患者が発生し、かつ病原体が検査で確認された事例の件数



感染性胃腸炎 - 予防と対策 -

参照：東京都保健医療局、東京都感染症情報センター、厚生労働省の各ホームページ

主な予防のポイント

- ・ カキなどの二枚貝は中心部まで十分に加熱（湯通し程度の加熱では、ウイルスの感染力は失われない）
- ・ 二枚貝の調理に使用した器具等は、洗浄後に熱湯消毒
- ・ 生鮮食品（野菜・果物など）は十分に洗浄
- ・ 調理や食事の前、排便後等は石けんと流水で十分な手洗い（アルコール消毒は効きにくい）
- ・ 手洗い後に使用するタオルは清潔なものを

二次感染の予防

【家庭や学校・保育園等では】

- ・ 感染者の便や嘔吐物には接触しないよう注意
- ・ 嘔吐物やふん便等で汚れた衣類等を片付けるときは、使い捨て手袋やマスクを使用
- ・ 嘔吐物等の処理に使用した用具等は塩素系漂白剤で消毒
- ・ 処理後は石けんと流水で十分に手を洗う

など



【食品を扱う施設の業者は】

調理従事者に、下痢、吐き気、発熱等の症状があるときは

- ・ 調理行為にたずさわらないようにしましょう
- ・ 医療機関を受診し、医師に相談しましょう

感染した場合の対策・治療等

- 特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法
- 乳幼児や高齢者等は重症化する場合があるので、早めに医療機関を受診することが大切
- 下痢止めの使用は、医師に相談してからにしましょう

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 - 症状と予防・対策等 -

参照: 東京都感染症情報センターホームページ

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の症状等

- 38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌等の症状
- 熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善
- 全身に発赤が広がる「猩紅熱」に移行する場合等がある

予防・治療等

- 予防には手洗い・咳エチケットが有効
- 流行時は、マスクの着用も有効
- 有効なワクチンは無く、発症時は、抗菌薬での治療
- 症状が改善しても、主治医に指示された期間の服薬が重要



**咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診し、
検査を受けましょう！**